

6.5 平成20年度総合技術研究会でのアンケート結果から見る実験・実習・地域貢献への技術職員の関わりと京都大学における地域貢献活動について



平成20年度総合技術研究会でのアンケート結果から見る実験・実習・地域貢献への技術職員の関わりと京都大学における地域貢献活動について

○下野智史¹・酒井尚子¹・堀部正吉¹・吉田あゆみ¹・植田義人²・鹿住健司²・後藤咲希子²・嶋田誠²・服部俊昭²・宮嶋直樹²・吉岡哲平³・吉川慎⁴・岡本賢一⁵・金山雅哉⁵・藤原慶子⁵・三宅智大⁵・加藤哲哉⁶・横田盤⁶・向昌宏⁶・本田由治⁷・松本明⁸・市川信夫⁹・志田正雄⁹・山崎友也⁹・鉄尾実与資¹

京都大学 大学院人間・環境学研究科¹ 大学院工学研究科² 大学院農学研究科³ 大学院理学研究科⁴ 原子炉実験所⁵ フィールド科学教育研究センター⁶ 環境保全センター⁷ 生態学研究センター⁸ 防災研究所⁹

(平成20年度京都大学総合技術研究会 実験・実習・地域貢献分野実行委員会)

アンケートについて

平成20年度京都大学総合技術研究会において、技術職員の業務内容について情報の共有化を図ることを目的として、実験・実習・地域貢献分野の参加登録者を対象に実施し、111名(大学:76名、高等専門学校:35名)の方から回答を得た。結果は本学技術部 HP (<http://www.kyoto-u.ac.jp/Jinji/tech/>) に掲載されている。

実験・実習支援について

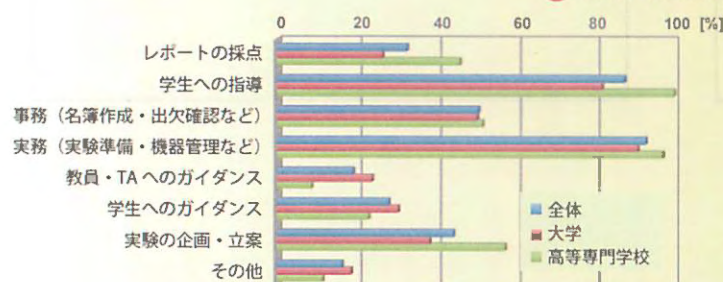


図1 実験・実習支援についての業務内容



図2 担当科目数

一人あたりの担当科目数が(特に高等専門学校で)多く、実験・実習のほぼすべてを任されていると思われる回答もあり、高等教育において技術職員が大きな役割を担っていることが確認された。

研究・学会/論文発表などについて

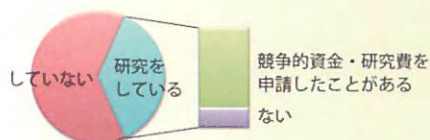


図3 研究実施と競争的資金申請の有無について



図4 学会・論文発表等について(行っている人の中での割合)

研究している人の多く(独自に研究している人では、96%)が、競争的資金を申請しており、研究を行うには競争的資金が不可欠であるといえる。また、技術部組織の増加とともに、研究室とのつながりが薄れ、研究しにくい状況になってきていると考えられる。

地域貢献について

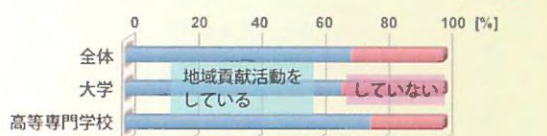


図5 地域貢献活動の有無について

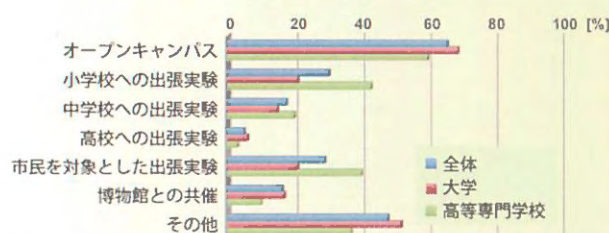


図6 地域貢献活動の内容(地域貢献活動を行っている人の中での割合)

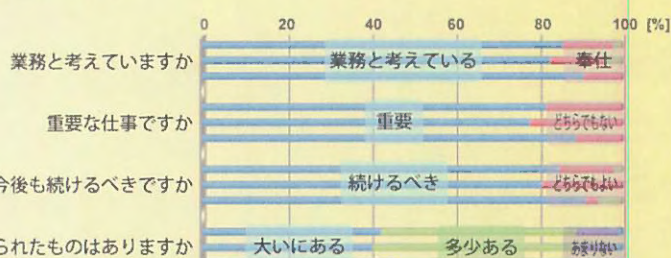


図7 地域貢献活動に関する質問の回答。各横棒は上から全体、大学、高等専門学校の回答の割合を示す。

大半の人が地域貢献に一定の価値を見出していると考えられる。今後は、実験・実習、地域貢献に係る業務がよりよい高等教育の提供や地域の繁栄、国益につながるものとして適切に評価され、モチベーションの向上と良質な教育や技術提供へつなげるサイクルを構築することが重要である。

基礎化学実験運営スタッフによる地域貢献活動について

特別授業(出張実験)



図8 兵庫県立西宮南高校での特別授業の様子

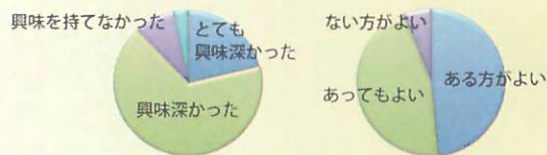


図9 特別授業に関するアンケート結果(回答数:33)

実験室の利用



図10 ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHIの様子(代表者:山本行男教授)